



リコリス「ジャクソニアナ」



夏植え秋咲き球根

リコリスとコルチカム

8月に入ると、チューリップ等の秋植え球根が登場してきますが、その前に植えておきたいのがリコリスやコルチカムなどの夏植え秋咲き球根です。通常の秋植え球根に比べ種類は少ないのですが、ユニークで個性的な花を咲かせるので、ぜひ楽しんでほしいものです。

リコリスの魅力

『リコリス』という馴染みがないかもしれませんが、ピンとくる人が多いでしょう。時期になると何もない地面から突然花茎を立ち上げ、赤や黄、ピンクの派手な花を咲かせるその姿から、欧米ではマジックリリーと呼ばれて大変人気のある球根です。ヒガンバナという真っ赤な花のイメージが強いのですが、日本や中国などに色々な種類が自生していて、白やピンク、黄色と様々な色合いがあり、交配された園芸種も次々と登場しています。

特にお勧めはブルーがかったピンクのジャクソニアナで、8月下旬頃に咲く園芸品種です。非常に良く花を付け、独特の美しい色合いはとても魅力的です。もうひとつのおすすりめ品種は濃い黄色のオーレアです。台湾原産の種類で、この仲間では遅咲きの10月開花ですが、濃い



リコリス「オーレア」

黄色の大輪の花は華やかで切り花としても出回っているようです。

リコリスは半日以上日の当たる所であればどこでも育つほど丈夫な球根ですが、掘り上げや植え替えを嫌う性質があり、植え付け1年目にはあまり良い花を咲かせてくれません。しかし、いちど植え付けてしまえば2年目以降は見違えるような素晴らしい花を咲かせてくれますし、しかもそのまま放任状態でも年々花数が増し、どんどんと見事になってゆきます。密生しても大丈夫なので少なくとも4〜5年はそのままの方がよいでしょう。

コルチカムの管理方法

コルチカムも秋咲き球根として有名な種類ですが、最大の特長は、「土も水も要らず、何もしなくても机の上で咲く」とでしよう。もともと大きな球根ですが、

その中にたっぷりと養分と水分が蓄えられていて、その力だけで花を咲かせることができるのです。10月に入り少し涼しくなってきた、そろそろチューリップでも植えようかという頃、大きな球根から直接ピンクの可愛い花を咲かせる姿はとても愛らしいものです。どこに置いていても時期になれば勝手に花が咲いてきますが、光の当たらない室内では花が白くなってしまうので、つぼみが膨らんできたら、明るい窓辺に置いてやりましょう。半日もしないうちに美しいピンクに色づいてきます。

花の終わった後、そのままでは球根も枯れてしましますが、もし来年も花を見たいれば咲き終わった球根を庭に植え付けましょう。春になると、まるでオモトのような大きな葉が広がりますが、6月頃に葉が枯れたあとと掘りあげると大きな球根ができています。掘りあげるのが面倒なら、数年はそのまま植え放しても構いません。リコリスと同様、時期になると何もない地面から花が上がり、室内で咲かせた時よりも大きくて花の色も濃い見事な花を咲かせてくれます。

文/グリーンアドバイザー 倉林雪夫



コルチカム